

令和2年に皆様からお寄せいただいた寄付金
34,883,619円(2,016件)は、
令和3年度の次の事業に活用・充当いたしました。

寄付金の使途	寄付件数	寄付金額(千円)	活用・充当した事業
新型コロナウイルス感染症対策	417	7,882	医療従事者活動支援事業 ※R3寄付金のうち723千円は R3年度事業に活用
新型コロナウイルス医療対策支援	105	2,367	
防災・減災	63	927	地域防災力強化促進事業
若者の働く場	63	1,116	Setouchi-i-Base コーディネーター拠点支援事業
水資源	38	750	香川用水水源の森保全事業
健康長寿	55	1,049	がん検診受診促進事業
子育て	236	3,777	第3子以降保育料等免除事業
教育	63	1,121	「さぬきっ子学力向上」事業
農林水産業	79	1,477	「おいでまい」ブランド強化事業
産業振興	22	376	香川の希少糖ブランド化推進事業
AI等先端技術	2	30	かがわAIゼミナール開催事業
観光	36	535	観光客の利便性・満足度向上事業
環境保全	41	633	森とみどりの祭典開催事業
動物愛護管理	100	1,849	ボランティア活動支援事業
瀬戸内国際芸術祭	31	482	瀬戸内国際芸術祭準備事業
栗林公園	262	2,846	栗林公園特別会計繰出金 ※うち40千円はR2年度事業に活用
香川丸亀国際ハーフマラソン	9	176	香川丸亀国際ハーフマラソン 大会開催事業
高校生花いけバトル	1	15	全国高校生花いけバトル開催事業
奨学金返還支援	13	271	奨学金を活用した大学生等の地方定 着促進事業
地域スポーツチーム	5	48	地域密着型スポーツ魅力向上事業
知事におまかせ	375	7,157	オリーブ生産拡大加速化事業

瀬戸内国際芸術祭準備事業

R3年度事業費

150,886千円

うち寄付金活用額

482千円

「瀬戸内国際芸術祭2022」開催に向けて着実に準備を進めました。また、過去の芸術祭作品をアート資源として公開し、各種イベントなどを開催する「ART SETOUCHI」活動により、島々の活性化を目指しました。

令和3年度実施状況

「瀬戸内国際芸術祭2022」開催に向けて、皆様に安全・安心に芸術祭をお楽しみいただけるよう、着実に準備を進めました。また、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、過去の瀬戸内国際芸術祭のアート作品の継続公開や各種イベントを実施するなど、地域におけるアート活動を「ART SETOUCHI」と称して、瀬戸内の島々の活性化や芸術文化によるにぎわいづくりを図るとともに、瀬戸内の魅力や「アートの香川」を目指しました。

令和4年4月から、第5回目となる「瀬戸内国際芸術祭2022」を開催しています。これまでの芸術祭に引き続き、「海の復権」をテーマとし、瀬戸内の12の島々と2つの港周辺を舞台に、春、夏、秋の3会期、計106日間の日程で開催しています。ぜひ、会期中に会場を訪れて作品鑑賞をお楽しみください。



小豆島中央高校ガイド体験ツアー(小豆島)



島のお誕生会(豊島)

医療従事者活動支援事業

R3年度事業費 468,445千円 うち寄付金活用額 10,972千円

新型コロナウイルス感染症患者の治療や看護等または感染の疑いのある方の感染確認検査のための検体採取等の業務に従事した医療従事者に対し、当該勤務の危険性に対して支払われる手当(特殊勤務手当)を支給した医療機関に対し、補助を行いました。

令和3年度補助実績

125機関に補助金を交付しました。
 ・入院医療機関、帰国者・接触者外来等:19機関
 ・診療・検査医療機関:106機関

県民の命と健康を守るため、新型コロナウイルス感染症の感染リスクに直面しながらも、最前線で御尽力いただいている医療従事者の皆様の労苦に報いるとともに、安定的な医療提供体制の確保に寄与することができました。

奨学金を活用した大学生等の地方定着促進事業

R3年度事業費 10,514千円 うち寄付金活用額 271千円



意欲や能力が高いにもかかわらず、経済的な理由で大学等へ進学することが困難な方で、卒業後は県内に就職・定着し、かつ地域の中核的企業等を担う人材と成り得る方を支援するために、卒業後の県内での定住、就業等の条件を満たした場合、第一種奨学金返還時にその返還額の一部を支援しています。

平成28年進学及び進級予定者を対象に本制度を実施し始めてから、令和4年進学及び進級予定者までで359名を認定しました。

全国高校生花いけバトル開催事業

R3年度事業費 14,723千円 うち寄付金活用額 15千円

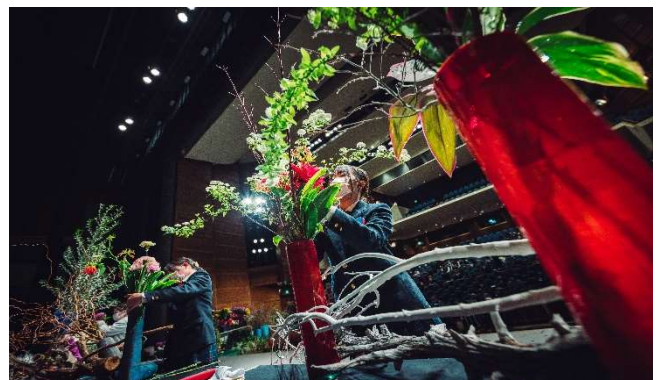
「第五回全国高校生花いけバトル」を開催することで、若い世代を中心に花きへの関心を高めて新たな需要を創出し、花き文化の振興を図るとともに、国産花きを周知し、利活用方法を提案することにより、国産花きの普及拡大に努めました。

「第五回全国高校生花いけバトル」(決勝大会)

- ・日程 令和4年1月22日(土)、23日(日)
- ・会場 レクザムホール小ホール
- ・参加者 地区大会代表11校(地区大会:90校、190チームが参加)
 ▶優勝 茨城県立土浦第一高等学校

新型コロナウイルス感染症対策のため、無観客で開催し、大会の様子はYouTubeでライブ配信しました(視聴数延べ8,500回)。

令和3年度も無事、大会を開催することができました。次の世代を担う高校生たちに、日本の花文化を伝えるため、是非、今後とも応援をよろしくお願い致します。



第3子以降保育料等免除事業

R3年度事業費

157,116千円

うち寄付金活用額

3,777千円

3人以上のお子さんを扶養する世帯に対して、第3子以降の保育料等を減免し、世帯の経済的負担を軽減することにより、子どもの健やかな成長のために適切な環境が等しく確保される子ども・子育て支援を行うことを目的として、保育所、幼稚園、認定こども園および地域型保育事業所において、教育および保育を受けた際に保護者が支払うべき保育料等の減免を行った市町に対し、減免額の半額を助成しました。

令和3年度助成実績

- ①3歳以上で教育認定を受けている子どもに係る副食費
 - ②3歳以上で保育認定を受けている子どもに係る副食費
 - ③3歳未満で保育認定を受けている子どもの保育に係る保育料
- 合計2,575名分 延べ27,530ヶ月分(市町への助成額157,116千円)

香川県の合計特殊出生率は1.47(令和2年現在)であり、全国17位です。令和元年(合計特殊出生率1.59、全国第9位)より下がっていますが、香川県での出生数は6,223人(令和3年分)と過去最低であった令和2年分(6,179人)より44人の増加となっています。香川県で次代を担う子どもたちを安心して産み、健やかに育てることができる「子育て県」を実現するため、切れ目ない支援を総合的に推進していきますので、引き続きご支援をお願いします。



「さぬきっ子学力向上」事業

R3年度事業費

25,125千円

うち寄付金活用額

1,121千円

香川県では、県独自の香川県学習状況調査を実施しています。調査を通して、児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握し、指導方法の工夫・改善に役立てるとともに、児童生徒の理解の程度に基づく個に応じた指導などを実施する契機としています。

令和3年度実施状況

- ・ 令和3年度は、「教科に関する調査」において、思考力を問う問題を重視して作問し、その状況を把握。また、「児童生徒質問紙調査」「学校質問紙調査」を実施し、児童生徒の学習や生活、学校の取組み等の状況を把握するとともに、学力との相関についても分析。

※「児童生徒質問紙調査」

学習や生活の諸側面等に関する調査を質問紙の形式で実施

【学校質問紙調査】

学校の取組みや児童生徒の状況等に関する調査を質問紙の形式で実施

- ・ 県内の小学校第5学年及び中学校第2学年の全児童生徒を対象に、小学校153校、中学校71校(附属学校及び県立学校を含む。)で実施。
- ・ 質問紙調査の結果から、「学習意欲」「言語活動」等について、各学校の取組みを見直し、検証改善サイクルの確立に注力。
- ・ 報告書をまとめ、各学校の授業改善の参考となるよう配付。

各学校における取組みの改善・充実の視点を得ることができました。今後とも、香川の子どもたちの学力向上に向けた取組みにご理解・ご支援いただきますようお願い申し上げます。



ICTを活用した教育の推進

がん検診受診促進事業

R3年度事業費

3,513千円

うち寄付金活用額

1,049千円

がん検診の受診率向上のため、休日に乳がん検診・子宮頸がん検診を実施する「かがわマンモグラフィサウンデー」など、がん検診を受診しやすい環境づくりに取り組みました。

かがわマンモグラフィサウンデー

乳がん月間である10月の休日に、県内の医療機関(※)の協力を得て、広域的に乳がん検診・子宮頸がん検診を実施しました。

※個別検診：23医療機関、集団検診(検診車)：県総合健診協会

令和3年度実施状況

- ・ 乳がん検診受診者数 399名(個別検診263名、集団検診136名)
- ・ 子宮頸がん検診受診者数 132名(集団検診)



過度な受診控えは、がんのリスクを高めてしまう可能性があります。がん検診会場では新型コロナウイルス感染症対策を徹底していますので、安心して受診してください。定期的ながん検診を受診しましょう。

香川用水水源の森保全事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
26,046千円	750千円

私たち香川県民が利用する香川用水は、早明浦ダムのある高知県をはじめ、水源地域等の多くの人々の理解と協力を得て開発された「貴重な水」です。

本県にとって、早明浦ダム周辺地域などの森林の水源涵養機能を保持することは、香川用水の安定供給を図るために重要であることから、吉野川上流域の水源林の除間伐及び作業道整備事業に対し、助成を行っています。これは、県域を越えた全国的にも例を見ない事業です。

これまでの助成実績

平成14年度の事業開始から令和3年度までの19年間の累計で、約14,900haの除間伐事業と約302kmの作業道整備に対して、総額約499百万円を補助しています。



森とみどりの祭典開催事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
3,076千円	633千円

県民総参加のみどりづくりをより一層推進するため、みどりづくりから林業・木材の利用までの総合的な普及啓発イベントを開催し、「みどり」とともに暮らす社会の実現を目指しています。

令和4年3月21日に香川県公測森林公園で普及啓発イベント「森林公園での謎解きイベント～ミステリーは公園の中で～」を開催。森林ボランティア団体等と協力して、県内の小学生を対象に、丸太伐りやグランピングの薪づくりなどの体験、森林を散策しながら五感を使った謎解きなど、木や自然とふれあっていただくことができました。(来場者数276人)

多くの方に森づくり活動の楽しさや、やりがいを感じてもらうとともに、森林の大切さを学び、豊かな自然を満喫していただき、県民参加のみどりづくりの意識を高めることができました。



ボランティア活動支援事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
4,849千円	1,849千円

香川県は、他県に比べ犬の収容数が多く、その結果、殺処分数も多い状況にあります。このような状況を改善するため、平成31年3月に県と高松市が共同で開所した『さぬき動物愛護センター しっぽの森』を拠点として、ボランティアなどと協力し、動物愛護管理の普及啓発や犬猫の適正な譲渡に取り組んでいます。

令和3年度実施状況

譲渡ボランティア(犬猫の適正な譲渡に協力)が管理する犬猫の診療費用の補助、譲渡会の開催等への支援やボランティアの育成を行いました。令和3年度については、犬1,004頭、猫439匹を大切に飼っていた方々のもとへ譲渡することができました。

多くの方に、動物愛護管理について関心を持っていただくことが、犬猫の殺処分を減少させ、人と動物との調和のとれた社会の実現への第一歩だと思います。引き続き、応援をお願いいたします。



栗林公園特別会計繰出金

R3年度事業費	202,421千円	うち寄付金活用額	2,806千円
---------	-----------	----------	---------

栗林公園内には、松が約1,000本、その他バベの生け垣をはじめとする常緑広葉樹が約8,800本あり、職人が1年から2年を掛けて計画的に手入れを行っています。



観光客の利便性・満足度向上事業

R3年度事業費	2,540千円	うち寄付金活用額	535千円
---------	---------	----------	-------



幅広い層の観光客の誘致と、県内での宿泊を伴う滞在型観光や県内各地への周遊型観光を促進するための公式観光パスポート「うどん県おもてなしパスポート」を発行しました。

令和3年度発行部数 50,000部

地域防災力強化促進事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
7,204千円	927千円

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、地域防災力の強化を図りました。

- 自主防災組織等への支援
 - ・ 自主防災活動アドバイザー派遣 延べ11人（派遣回数9回）
 - ・ 地区防災計画や避難所運営マニュアルの策定など、市町等と連携しながら自ら創意・工夫して行う、先進的な自主防災活動を支援（補助）17件
- 県民いっせいで震防災行動訓練（香川県シェイクアウト）
 - ・ 参加登録者 249,855人（参加団体1,180団体）
- 市町・関係行政機関や香川大学と連携した事業
 - ・ 市町防災・減災対策連絡協議会の開催 3回
 - ・ 香川大学と地域強靱化についての共同研究を実施
 - ・ 香川大学「四国防災・危機管理プログラム」への職員の派遣



香川県シェイクアウトの様子

「おいでまい」ブランド強化事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
6,443千円	1,477千円

県オリジナル米「おいでまい」を、香川県を代表するブランド農産物としての地位を確立し、県民米として定着させるため、県内を中心に、積極的なブランドイメージの発信を行いました。

令和3年産「おいでまい」（栽培面積：1,330ha、生産量：6,380t）について、新米の出回りはじめから、5カ月間、元気モリモリ「おいでまい」フェアを開催し、小売店及び飲食店などでPR活動を実施しました。

「おいでまいフレンズ」による広報活動、「おいでまい広め隊」による出前講座、HP、SNSを活用したPR活動(69回)、各種メディアを活用したPR活動(13回)、オリympiaガイナースと連携したスポーツイベントでの協賛(4～9月)、学校給食用「おいでまい」への助成(4円/玄米kg、637t) など

「おいでまい」は9回目の収穫を終え、今年も粒張りが良く、透き通るような高い品質のお米を消費者の皆様にご提供することができました。認知度の高まりも、フェアを通じて実感しているところです。今後も生産者の皆さんの想いが詰まった「おいでまい」で消費者の方々を笑顔にしていきたいと思っておりますので、応援よろしく申し上げます。



出前講座

香川丸亀国際ハーフマラソン大会開催事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
4,750千円	176千円

第75回大会は、規模を縮小して準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年連続の延期となりました。昨年度から、大会HPにおいて過去の出場選手からの応援メッセージやこれまでの大会の名場面等を掲載し、大会の魅力を発信することにより、コロナ禍においても申込み数が定員に達するなど、大会への注目の高さを実感することができました。

次回大会(令和5年2月開催予定)のキャッチコピーは「On Your Marks」

参加される皆様に、安心安全な大会のスタートラインに立っていただけるよう、また、この大会を通して、本県のスポーツ振興や、にぎわいづくりに貢献していきたいと考えています。

毎回、トップアスリートから市民ランナーまで1万人を超えるランナーにご参加いただき、まさに日本最高峰のハーフマラソンとして世界中から認知されるようになった本大会。多くの皆様に愛され、楽しんでいただけますよう準備を進めていますので、次回大会をご期待いただきますとともに、今後とも応援よろしくお願いたします。



前回第74回大会(R2.2月)

かがわAIゼミナール開催事業

R3年度事業費	うち寄付金活用額
11,046千円	30千円

AI(人工知能)技術の利活用については、私たちの生活や働き方を劇的に変え、また、地域が抱える人口減少、地域活力の低下などの様々な課題の解決に寄与することが期待されています。

県内企業等においても、AI技術の利活用を推進するためには、自社内に専門的知識を有するキーマンとなる専門人材を育成することが重要であることから、実践的な知識・技術を基礎から体系的に学習する機会を県内で創出し、経営者層への意識啓発を行うことを目的として、AI人材の育成を推進するための講座を開催しました。

- ・ 実践講習会 AI技術の習得に必要となる、プログラミング技術(Python)及び数学の基礎知識、基本的なAI実装方法を習得に加え、AI利活用のプランニングなども取り入れ実施【受講者:22名】
- ・ 実務講習会 東京大学松尾研究室と連携し、過去のAIゼミナール受講生等を対象にAI技術に関する技術動向等の最新トピックスを学習する機会を提供【受講者:111名】



対面開催の様子

地域密着型スポーツ魅力向上事業

R3年度事業費

29,058千円

うち寄付金活用額

48千円

一人でも多くの方に試合会場に足を運んでもらえるよう、会場全体のエンターテインメント性を高めるイベントを開催し、試合観戦の機運醸成に向けた魅力づくりと情報発信を実施しています。

試合会場でのイベント「魅力体験DAY」を開催するほか、感染防止を念頭に、オンラインを通じたファンと選手との交流を行うなど、球団の魅力発信と応援機運の醸成に取り組みました。

香川県を拠点に活動する地域密着型スポーツチームは、様々な地域貢献活動に取り組むほか、地域活力向上や交流人口拡大にも貢献しており、県ではこれらのチームを地域の財産と捉え、活用と支援に取り組んでいます。これからもスポーツチームへの応援をよろしくをお願いします。



(C)S.M.E



(C)KAMATAMARE SANUKI



(C)KAGAWA FIVE ARROWS

香川の希少糖ブランド化推進事業

R3年度事業費

7,451千円

うち寄付金活用額

376千円

大規模な国際見本市への出展を通じて、県内事業者が製造した希少糖関連商品の販路拡大を促進するほか、県内外のイベント等において「希少糖＝香川県」のイメージを発信、浸透させることにより、本県の希少糖産業の拠点としての地位と、希少糖ブランドの確立を図りました。とりわけ国際見本市では、希少糖に特化した県内企業が共同出展することにより、国内外のバイヤー等来場者の注目度を高めることができました。

FOODEX JAPAN

(令和4年3月8日～11日の4日間、幕張メッセで開催)

希少糖商品の販路拡大及び希少糖ブランド力の強化のため、アジア最大級の国際食品・飲料展「FOODEX JAPAN 2022」に「香川の希少糖」ブースを出展しました。出展した県内企業からは、『直接商談の場で希少糖使用商品をPRできた。コロナ前と比べて来場者数は減少したものの、そのぶん目的意識を持ったバイヤーが多く見られ、質の高い商談ができた。』との喜びの声をいただきました。

今年度も国際見本市への出展をはじめ、県内外のイベント等を通じて香川県の産業振興に努めてまいりますので、引き続き応援をよろしくお願いいたします。



オリーブ生産拡大加速化事業

R3年度事業費

15,578千円

うち寄付金活用額

7,157千円

本県のオリーブ産業の基盤となるオリーブ生産量を一層増加させるほか、高品質なオリーブオイルを生産することにより、全国トップの産地としての地位を堅持するため、オリーブ苗木の新植・改植、オリーブの栽培管理・加工に必要な施設、機械の整備に要する経費について助成しました。

令和3年度助成実績

オリーブの新植・改植、防風施設や防獣施設等の整備、採油機及び貯蔵タンク等付帯施設の整備など合計14箇所助成を行いました。その結果、令和3年度については、オリーブの栽培面積220ha、生産量522tとなり、かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度の認定製造事業者数は33者に増えました。

香川県では、全国に先駆けてオリーブオイルの品質評価基準を策定し、これを満たした高品質なオリーブオイルを「かがわオリーブオイル」として販売しています。品種や収穫時期、事業者の違いにより、フルーティさや苦み・辛味などにそれぞれ特徴が見られます。ぜひ一度お手にとっていただき、多彩な風味をお楽しみください。



オリーブオイルを抽出できる採油機

Setouchi-i-Base コーディネーター拠点支援事業

R3年度事業費

25,569千円

うち寄付金活用額

1,116千円

香川県では、県外に流出している人の流れに歯止めをかけ、人口の社会増につなげるため、若者に魅力のある情報通信関連産業の育成・誘致に取り組んでいます。「人が集い、学び、交わり、共創する、オープンノベーション拠点」をコンセプトとする「Setouchi-i-Base」に、施設利用者のサポートを行う専任のコーディネーターを配置し、様々な相談に対応したほか、施設利用者の増加や交流の促進に資する各種情報発信やイベント等の企画・運営等を行う等、総合的な支援を行いました。

令和3年度実施状況

- コーディネーターによるイベントの開催 106件(参加者:28,928人(うち、オンライン参加者:28,627人))
 - ・ 地方創生ビジネスコンテスト・ビジネスマッチングイベント「瀬戸内チャレンジャーアワード2022」(令和4年3月5日開催)
中学生から主婦、大学生、言語聴覚士など幅広い方がエントリーし、最終発表会では8組のファイナリストが地域課題をビジネスで解決するアイデアを発表。5名の審査員の投票で準グランプリ1組とグランプリ1組が決定。

- コーディネーターによる各種相談対応 595件
利用者に寄り添った支援を行った結果、起業:8件、新規就業:15件、フリーランス:17名が誕生。

高松駅前、高松シンボルタワーにあるオープンノベーション拠点「Setouchi-i-Base」では、コーディネーターによる支援に加え、情報通信関連分野の人材育成講座やセミナーも行っています。ご興味のある方は、まずは、施設の見学からでもお越しいただけます。コーディネーターがお待ちしております。

